一 漢字整理案(文部省普通学務局国語調査室)

て学、圍に対して囲など)を許容体と位置付け、これらをまとめて「許容体案」として附載している 手書体との一致を図るに在り。本案は康熙字典の字形を本として整理を行ひたるものなり。」と同案の目的及び方針 と比べ、簡単で書きやすく慣用の久しく広い字体(例えば、區に対して区、勞に対して労、國に対して国、學に対し が凡例に明記されている。巻末には、詳細な整理方針が「漢字整理案の説明」として述べられている。また、標準体 きて、字形の整理を行ひ、其の標準を定めたるものなり。本案の整理方針は簡便を主とし、慣用を重んじ、活字体と 藤朝太郎、山口察常、金井保三が当たっている。「本案は尋常小学校の各種教科書に使用せる漢字二千六百余字に就 本整理案の作成には、上田萬年、芳賀矢一、服部宇之吉、林泰輔、松井簡治、 岡田正之、保科孝一、諸橋轍次、

多くがいわゆる正体に改められた。 調査会から発表されるが、同案の整理方針がこの「漢字整理案」におけるものとほぼ同様のものであり、それが採用 のような事情によっている。すなわち、大正十四年十一月に常用漢字表の字体を整理した「字体整理案」が臨時国語 されたということである。ただし、昭和七年以後の教科書で新たに教科書体活字が用いられるようになった際、その 一般に、「漢字整理案」に掲げられている字体が小学校の国語教科書(国語読本)に用いられたとされるのは、次

なお、収録に当たって原本(B5判、国立国会図書館蔵本)を拡大(一一五%)した。大正八年十二月二十五日発

行(文部省普通学務局)。

文部省

本家八尋常小學校,各種教科書"使用也漢字二千六百 餘字"就半、康熙字典》本上之子整理》行とダルモノニンラ、大13 於多整理多要スペキモノ甚が多と。今字形二就キラ之多見上、從來 先少字形,整理:看手之漸次字音字義及以用法等:交 就十方其,統一月圖川整理习行了八分日,悉務九月記入 難たノシナラズ實際上,不便亦動シトセズ故、現今,漢字、 現今我が國二行八八漢字》見八一其,字形音訓及心用法等二 モノアリ。此,如八國民教育上漢字教授,徹底习期不了上因 一般,標準乳康熙字典、於テモマ、統一,缺事或八煩冗、失人

要字畫,簡易運筆,利便九至,以成八字形,釣合,整13 (小異,合同ラ圖ルニ努メタリ

排斥人べキニアラズ。故「簡單ニンラ書+易久、慣用既二久」」」且廣キラ 世俗慣用ノ文字二部謬(モノなニアラザレドモ、必ズシモ一概:ショ ラ選ビラ使用ラ許容スカー、シンシを末、掲載セリ

公いうきょさっ世、批評ッ水ルコトンセリ。 岡田正之保科孝一諸橋賴次後藤朝太郎山口察常,調查選定 生了以将來廣夕國民教育上、採用セントスル見込ナレドス、今先以之 本案,文字八文學博士上田萬年同服部守之吉同林泰輔松井簡治

大正八年七月

文部省普通學務局

(三) ①本案八字常小學校,各種教科書、使用也心漢字二千六百 二級線ラ編メタルモノ 本家,整理方針,簡便ラ主下、慣用,重以治字體下手 本案、康熙字典、字形ョ本トンテ整理ラ行とタルモノナー。 整理上主要之項目の舉が以左、如う。 餘字二就多元字形,整理了行心其,標准了定多心之了十日 縱線 挑木名云 トノ一致ョ圖心在り。 人字、標準體小字、字典體以下之:做了

一番銀河編ックルモノル 一番の一月屋りが、一月をできまりをできまります。カーカーのでは、シーモノル・一番の一月屋であれる。

マ伸シタルモノ

前 條 音二從とテ形り改メタルモノ 準 以上一月採り夕だり 左如條項ョッテ 光體 トナルトキ、軍 筆习變了 (小字、獨體大字ハソ,扁トナンルトキ,形ョ示ス 理を行いタルモノアリ。 又八畫ョ省クコトの 埀 猪

(四)

三

丁父八人及等、してし 丙 構內戶小 クラ 困 困 盤 おかり 因 斜 因 等不亦之二年入 線、之列押 閣 線,起筆、釣畫八之了省 料

バスコトの 火木又,如,右方"斜線,有人之, 2、三ッ以上 相重 ナルトキハ最後、モノノ 136

森營

暖勞

勞

禁

桑

(五) 戊 本 案 但シ整 太氏良 形ない ザルコト。 衣 徐 八人文字ノ排 列义又五爿 部八所屬文字十五以三之月省 理始果部首部 ラス字典三於テ一畫一數へタルモノハ 至 至 如列八康 7 矛內非鬯 ム 至 熙字典 眼 一震,變八川タルモノ八滴 方順序·據 治 治 版 鼠 追 鼎 肱

丢

中中一串部

世三一世三一

丙上丁部

丞下七

且万

小字ノナキハ字典、見てだそん大字八標準體小字、字典體

乾し 九 九几 乾轧 亂九部 丹部 之 之 主

乳乳

亡也一交郊

豆二

了了

亚 云部

事事事

亦亦

互互

享享

五五

京京京京

并并

作住伸伐件代内人作住伸伐件人

佩佐似体任令仕仁部

住何但全企以他仇

併余位伯伊仰付今併命位伯伊仰付今

使佛低伴伏伸仙介

傚健倭倚倉信俄侵依來 做健倭倚倉信俄侵依來

傭側假借個修俗侶兩修備側假借個修俗侶兩修

傳偶偉值倍俱俘便舍例

债务偏倦倒俵保保备侍人。

傷備停偏候俸俟促侯供傷備條俸俟促侯供

光允光

難儒僧傾

部

克元和克元部

働儘價僅

免兄死

償儀像

鬼兆

優億僕

兒先

儲儉偽

册 具公部 再 再部 部 典六 胄 申 兼共 冒 采 共 回回回

兵兵

凯部

凉凉凉 凌凌

凍况凍況

减治減治

凝冷凝冷

宜宜

冠冠

冠冠寇

雷富富

寫寫

劇剛利利刀

凶凶

型剥到到列刃部

出出

剱副則制初分 剱 副則制初分

函函

割削刷判切

九

創前刺別別

奴 勺

翻勞勉努力

勾勾勾部

勸募動劲功部

勿勿

勢勘勃加

包包

勤務動劣動務教教

匐甸

熱勝勇助

匹 匹 卒千部 匠 部 E 医 一样合之) 卓升 協午 區 協年 區

南半

巨巨

化

化

北

北部

卸印 占 博

即即即

却却卻

qp qp 土

叢叔又

去

厦厄尼尼

取又部

參部

L

厭厘 原

爱 及 爱 及

厩厚 原

叛友

厨原

士

 属厥属

味吾含向同右叭古部味吾含向同右叭古部

呼告呈君名司可句呼告呈君名司可句

命召具吞后各台叩命召具吞后各台叩

出周吸吠吏合叱叫

確噴嘉舒喙啞唱員哀和唯噴嘉舒喙啞唱員哀和

囊嚙當鳴善啼唾哥品咫囊嚙當鳴善啼唾哥品咫

时智嘴巷巷商哨哈咲

呎嚴噌嗣喫喇問唐略咸 嚴噌嗣喫喇問唐略咸

哩轉器嘆單喉啓唯奇咽轉器噗單喉降唯奇咽

均土

圆图四四

噸

坊在站

圖圖圖圖部圖

坐地

團 國 四

抗址

圍困

坪坂坪坂

園園

共

豐墾墓墙場堅培埋垂 豐墾墓墙場堅培埋垂 場

壤壁 墜塚 堺堡基城 垢壤壁 墜塚 堺堡基城 垢

埔壇增塞塊堤埼城垣增塞塊堤埼城垣

塀壓墨塾塔堪堀埠垤 壓墨塾塔堪堀埠垤

壕塊境塗報堂執埃

ナメ

頁 夏 夥外部 外部 壯 壯部 久八久二併合セリ 壺 壹壹

壽

姑姑女

奪奏失大

姓妹好

委妻如 麥 麥

奮奔 夾 太

姨婶娃 姨姊姓 奢 奈 夫

姓始妙 好 岁 梦

奥奉央

宅宅

學孟子學

女帝女臣 婦 姬

宇部

季孔。季孔部

媛姿 竣

守守

孤字

嫌威嫌威

安安

孫存

嫩 娘

完完

孵孝

娃婚 婚婚

寸

審察寫宮定宗審察寫官定宗

寬寡密容罕宛宏

封封

寶寢寐宿害客宕寶寐宿害客方

身射

實寒寂宴宣宗實寒寂宴宣宗

将將

寧寔寄家室官

就 1· 就 尤 尖 尚

尚

尊尊 尉尉

尊軍

亭亭

對對

山 岐部 岡

屯屯

履屏局尺 履屏局尺

部

屬屑居屍屬屑居屍

展届尼展居尼

岩岩

要屈尾 展居尾

山岬

唇屋尿唇屋尿

ןונ ווי 嶽嵩崖 峻岳

工 州部

嚴蜷崗峽岸

巡

峠 嶮 崙 崇 裁 峨 崙 端 峨

巢

類崩 崎峯 峰話

嶼嵐崑嶋島嶼嵐島

帳帛市 卷己 卷已 帳 帛 市 已已部 带帝布部 **E** 常帥帆 巧巧 帆 差差 危危 帽師希 帽師希 巷卷 幅席帖

163

幅席帖

床 幼 幌 床料 幼 幌 幺 序部 幽 幽部 底底 兹 兹 艦 幸幸 店 幾 幡 店 多六

府府

幹幹

幣

选选迎

延延

庄廟庶度

迎部

廷部

廠康座廠康座

近近

建建

廢廉庫

逐逐

廻 廻 廣廊庭廣廊庭

迫迫

廳原庵

込遼遲遠道遂週通逃述 遼遲遠道遂週通逃述

辻選遵違建遇進速逆迷

避遇適違遊逸造透追避遇達遊遊追

週選遭遙運逼逢逐退

邊遺遮遮過道連途送

茨 苫 苗 芳 芋

弊

茶英苛芹芝

部

茸茂苞芽芥

草范若苑芭

千九

在茄苦苔花

蕃蔓蒼蒙華萬菊菜荟荒

華 蕉 蓄 蒟 葬 萼 萊 曽 莢 荷 華 蕉 蓄 蒟 葬 萼 萊 曽 莢 荷

蕉蔚盖蒲荔落荫菜管荻

蕊 蔦 菜 蒸 葱 菜 著 華 菊 莊 藥 蓋 養 蓋 葱 菜 著 華 菊 莊 葉 蓋

蕎陸蓮 弱 莳 葛 萩 菱 菌 莖

蘭諸藝薰雜蕨

藻藥籍薩薄

蘆藩 藍 薪 薇

蘇藪藏著薔

三十二

影形影形

彌張弟弓 弥

彦部

强弦引强强强

周3

弱 弧 弗

彭彭

彈弭弘

彰

疆弱驰

土

忽忘心

循得待役循行行役

心

怒忙必部

微從律彼部

思忠忌

微狭後往

总快忍

德御徑征

性念志

微復徒祖

慢愧愈情感悟恰恥恒怨慢愧愈情感悟恰恥恒怨

慣慎意惱惜患悅恨恙怪

概慈愚想惟悲悉恩恢怯 概 想 想 惟 悲 悉 恩 恢 怯

愿態愛惺惠悼悔恭恣恃慮態愛惺惠悼悔恭恣恃

 戴戒戈

懌憤慶

部

芝戊龙

懶憲憂懶康憂

或戍

懷憾憐憐

戰成戰成

懼怨憑

戲我 戲我 懿應憚

麦

振拭拔押投扶手

P

挽拳拙拂抗扼才部挽拳拙拂梳扼护

房房

挾拾招拍折承打 扶拾招拍折承打

所所

捉持拜拒抱技托

扇扇

捷指括拓抵抑极 排指拓拓抵抑极

扉扉

擔擅撓揭接揚推掠授捕

擢擊撫摩搏握揃探排拾 權擊撫摩搏握揃探排拾

擬操播摺播揭提接掘捷

横擒摇摇挥挥控掛棉

敬救故故收

支支

擾

放 敗 效 改 改 部

支部

攘攘

敷飲飲攻敷稅稅稅

攝攝

數散教放

攩

二十八

整敦敏政整敦敏政

榨

斤 中 中 中 中 中 半 半 支 文 文 文 本 半 数 要 部

斧 斜 斑

斬

斯斯

既旣既

族方族な

新新

日部

无部

旗於部於部

幽介 断斷

藩施 権 施

核核

旋旋

曜暴暖景晚昨易旭日曜暴暖景晚昨易旭日

暖運暗時畫昭昔昆旦暖運暗時畫昭昔昆旦

曆暑品晦是星昇旨曆暑品晦是星昇旨

墨暫智晨時映昌早

晚暮 暇普 春 明 旬 時 春 明 旬

望月望月

會書日會書日

木部

朝有部

曹曲部

期期期

曾史史史

服服

替曳

段

最更聚

四十二

株棚抵柏校板柿杏朱木

核栖查某果桃東村机未

根栗柱柑枝杠杷村朽末

格架柳染枯枕杵杖杉本

裁校柴柔柄林松束李礼

榎楠椴棺楝菜梨翠桐桁

榕档椿椅楼棋梯梃桑桂榕横椿椅楼棋梯梃桑桂

榛業楊植森棒械梅桓桃

築植楓推接聚梳條桶框

構極精椒掉棚棍梢桿案構極精椒掉棚棍梢桿案

次次

權盤擅橋模機槌

欲部

替 稿 橘 様 樋 槍 鬱 櫛 檎 橘 様 樋 槍

其文 欺 樂檜橙樹標概

欽欽

櫻檢機棒樞槽

最歌

欄播横樽樟樂

殖死 死

歳 止

歌歌

残殁那

歷正部歷正部

殆

歸此颇

歐歐

殉殉

步步

整數

殊殊

武武

四十六

比比

母母

殺段

北

投 殺部

毒毒

殼殼

殿殿

雙毀

四ナと

氣 氏 毛 和 水 年 平部

毯毯

曾毛

四大

浦洪洋泣泄沸沈池汐水

浪洲洗泥泉油没汰汗水

浮活洛汪泊治沖汲污水

浴派洞泰法沼沙汽汝汁

海流津泳波沿河沃江求海流津泳波沿河沃江求

溉满溶準湊渥淺深淀浸漁 海海溶洋 湊 渥 淺 深 淀 浸

演鴻滔溜湖温添淳淋消演漁湖湖温添淳淋消

漕漂滅溝湧測渠淵淑渉

漠漆滋溢湯港渡混淚涯 漠漆滋溢湯港渡混淚涯 菜

漢漏滴溪源游渤清淡液

炎火炎

難瀑濟澤潟連

炭灯炭灯部

灣瀕濡殿潮漬

烈灰烈灰

潤龍濯激溢漸闊 濯激溢漸

烏災災灾

浬瀬濱濁澄潔 瀬濱濱

無炊

灌瀉濃澎潜灌瀉湯

爪爪

爆燒熨煙焰爆燒

成 爭 部

爐热熱煤然

爰

熔營熾照煉

爲為

燧燃燃煮 爆燃煮

爵會

燭燈熟熙

片片

爽爽

父父

瓜瓜

版部

英爾部

爺部

栗瓜

片業 煤 辨

五

犬犬

物牛

牙牙

把那

特批部

部

狀狀

犀车

孤孤

牡牡

狗狗

牧牧

五十二

珍玉

玄玄

獨猪狙 獨豬猪 狙

珠玉部

率部

獲猫狩雞

班珂

獵猶 掩 狹

現珈

默猿狼

球珊球珊

獻 狮 猩

甘甘

魅 瓦

璃琶理

甚部

磨瓶部鄉

環琿琉

甜甜

党党

瓊瑚琲

曾紀

瑞琴

瓩

瑠琵 瑶

町町田

用用

生生

界由部

用部

產產部

畏 甲 畏 甲

畔申

留男習

痕疣

疎

疆畫 畜 畜 畜

痘疫部

疏部

農異畝 豐 要 動 敵 敵

痛疹

疑疑

畑當略

痢疾痢疾

島 畷畦

痰病 痰病

畿番

皮皮

白白

登登

瘡瘡

皮部

白百部

發部

療療

的的

癒

岩皆

癲

皇皇

至九

着眼眉目

盟皿

睡看盲部

盡盡不

督真直督真真

監益

睡 眠相

盤盛盛

春眺省 春眺省

盤盗盜

六十

糜磐碎硝石 際 解 碎 稍 石

矢

碗磨碎硫砂部磨碎硫砂部

知部

馬 飛 在 硬 施 職 麻 麻 麻

矧

楚確 現破 破 破 破

矩矩

至

礦磁基研

短短

秒秃

禦祭祐示

租秀部

禪禄祖社部

抹私

禮禁祚祀禮禁祚祀

秦秋

福福祝 祇

秤科科

稿福神 所

六生

窮室穴京

穫稽種程秩

窯 窓 究 部 密 密 密 密

穀稱稍移穀稱稍移

電窟空窟室

積程棉稀

窩穿穿

稳稻稚税

窪突

穗稼稜稈

六三

筑筆笛竹 第 等 首 竹

端立

简等签等部

発章章 競競章

答筋笥笊

童童

策省符笏

監整

第 後 第 笑

竭

六十四

糊粘米

籍篇節算筵

糖栗粉部

笹箪範割箇

粪粱粒

簡篇管等

糧粹粕粮粮

簸築箱箔

糯精粗

籍條箸箕

給結絡紡紗紊糸

初

纤

絲 絞終紬 級納紀

耗

網絡組細紛紐約

糎

李六

经辩辩种素纯红

怨繫絲縱絕緬緒網經

繭絲總綿緩線級綠綠綠絲

繼續縣緯締綸終

纂繩繁縫緞綠綠維維 維

續繪編縮練編綿網

芝

羊羊

署問署問

缺缺

美部

馬罘部

缶部

君羊

罹罪

義義

羅置羅置

罰

六十八

耐耐

老老

翼羽

而部

考考部

翅部

者者

型型

香

習習

六十九

翠翠

摩

榮 聚 耳

耕

丰部

聯即耶部

不部

聽鄉耽耽

龍聰聖

聲聘

セナ

腸脹脇 間背骨股肉腸 静 静 静 静

腹腎脈胸胚肽肥肋部

腽腐脊能胞育肩肖腽腐脊能胞育肩背

展腦腳脂胡肺肠 聯聯聯胡肺肪肚

唐 腰 脱 胳 胃 肋 肝

自自

臣

雕膾膝

臭郎

卧即

臨臨

膵 臀 膳 臀 膳

腰膚

セナニ

月巤 謄 雕 雕

舌舌

臼

至至

舛部

舌部

與部

致致部

興興

查室 臺 臺

學舉

舊

七十二

良良

角魯 船 舟 船 船

美足 製部

舟 航部

船般 般

般舵

角監 角白 艦 舶 七土

姓 姓 安 號虎號虎

色色

蛇虹部

虚部

色部

蛤蚊

虚虚虚

垂蚓 盖

虜

蛙蚤

虞虞

血血

蛾 蝦 蝦 蜘 蛛

行衆部

鑫 蟲 蝶 蜜 蛹

基解蜡蜡蛾

鐵蟻醬蝸蜀

七十六

蟾螺蝗蜂

襟裾補袴袋衣

行行

襦複裝栽袖表部

稍

襲褐裳裂袢衰襲褐裳裂样衰

街街

褒裸裏裹表 裹 裹 裹 裹 裹

律 衛

聚製喬被袂 製 裔 被 袂

衡衡

七十七

覽見 覽 見 觀規部 解解部 覆 視 觸 覆 觸 視 親 霸 親 覇 霸

覺

覺

·

部課誠認詮詞診記言 課 課 認 該 記 言

諒誤誓詩詠註訪計

論調誦謎話語認設計

諡談說誘詳試評許訓 諡談誘誘詳試評許訓

諫請誰語誅詩詛訴託

谷谷

護護識謝謂諭 養護識謝謂諭

A

部

譽譜謨謖諸 馨譜 誤認諸

讀警認誘諾

討譯謹謙謀 謙謀 謙 謀 讃

變議證講謁變議證講謁

豹豹

豚

豆豆豆

貝如

新 靴 部 粮

象部

宣宣部

豪豪

豌豌

豫

豊豐

尘

購買賬路貸貯貪貝購緊略貸貯貪貝

赤部

贈賣質賞費賞貨魚

質賜資貿貴費財質賜資質費財

八十二

賴貴賊賀買責貢賴賴貴財質買責貢

践跨足路路足

趙走

赤赤

路路趾部

趣赴部

赦

蹟 跳距 距

趨起

跳 踊 跟

超超

八十三

躍踏跡

越越

身

車害輝較 机 部 報 報 部 部

躬部部

轉輩載軍

賴輪輔軒

轟輸輕軟

子

郎邑郎

辱辱

辛辛

郡那郡郡郡

農農部

弹部

部邦

海幹解

郭邱

辩辩

少五

郵 郎 郵

湘

醜 酷 酌

都都

孙部

醫酸配部

鄉

酸 醒 酢

八十六

西襄 西胡 西孝 藤 醐 酵 錐鋤왨鉤釧金

里里

錘锯銛銀鈴釘部 銀鈴釘部

重重部

錠鋼銳銃鉈釜

野野

錢銀鍊銅鉛針

量量

ハナと

錦鑄鋒鉛鉢釣

長長

盤鐵 鎧 鍋 錫

門部

長部

鑄鎮鎌鍋

盤鏡鎖鍍鑒 鏡鏡

鐮 鏤 鈴 鍛

文

罐鐘鎚鳅

隆陶院附阜

開 門 門 開 開 開 開

隈陷陣陋阪部 降陷 降 陋 阪部

開閉閉閉

隊陸除降防

閣開

隋陽陰限阿豫陽降限阿

関 関

階陽陵陛陀

門開

離集隻

款 赫赫 隣 隔 隔

難雇雀部

隶部

隨隙隙

此惟 雁

險際

雞 雄 雄

障

雜雅 雅

隱隱

青青

靈霧電雨

清清部

震需 雪部

靜

露震雲 露震雲

霽霜零零

靄霞雷

電 霞 雷

面面

非非

靴部

面部

非摩部

鞋鞋

鞍鞍

鞠

主

頸領頂

音音

韓韓

類頓頃部

響響部

韓輔部

頻頻順

題領領

九兰

額頭預

飛飛

風風

顯 頸

食部

飛

部

風

部

顏

原願

类類類类

顧顧

香香

首首

舒節食

馨部

首部

館養飢館養飢

謹餌飲

餓飯飯

徐甸

九十五

骨骨

驗腦駒馬

高加加

骨 野 部

驚馬番馬吃馬太 縣 縣 部

那

760 日本

馬單馬髮馬川 縣 縣

芦體体

驕騎 駐

九十六

鬼鬼

翻翻

髮髮

高高

魁部

門鬚部都

魂意

長質養

魏魏

ルナス

魔魔

鳥鳥

觸 鯨 無 無 魚

鳩部

鯱鱗鯨鯉魯

鳳鳳

經際縣 鯖 鮎

鳴鳴

鰻醬鯛 鮒

為為

鱧鰹鯛鮭

カナハ

医 鹽鹽

色龜

鷹鵯鴨

鹵

亀

灣 熟鴻

部

部

鶏鶯鴿

鶴鶏

區島 鵜

ルナル

麻麻麥養鹿麻麻麻麻麻麻麻麻

納麗

鼓部

默默歌

泰部

黙點

黨黨

百一

龍部

百三

(二) 採用也見書事易久又八慣用人久之人且 左,數項,如同一類通過以許許 但:採用北字體中既定,整理項目 三限シテ段メタルモノアリ。 馬鳥鳥為寫為八八丁一作了系統字 毛亦之"做力 容スルモノハショ掲が大の 廣キモノヨリ 之ヲ

體、古字俗字略字等习問公

是定足走之走写爲鳥鳥 是定足走做足70定 寫 題定路赴 題淀路赴 総跡趣 绽 跡

是瀉偽嗚鳴 海偽嗚鳴 统

鹭

寒安全 军品 英军品 教军 壤萼儉戰操 上釀類嶮蟬藻 顎 險

児 偽化 乱 兒 偽 佛 人 儿 尽来 部 儘來部 部

两两

侣

仮假

一體ト一部相通ズルモノ。の印の附分に其、意義用法、標準文字、排列、標準體、順序:據心文字、許多問外標準體、順序:據心大字、許容體小字、標準體

励

翻

円 噛 噛

図圖

实實

王寶

遊遊衛帶線湖山遊遊之產部部部

逓 廳

遅

迁遷

251

徕

菱菜 莱

角筋

7

盖蓋

断极振扬所为

数 探

担擔

拠據

Ł

栈校 用 香 昼 於 用 香 香 中 香 部 香 部 香 部 香 部 香 部 香 部

荣 束

楽条

松 棚

リ帝歸

桧檜

檪櫟

九

権權

分

炉冷焰炎

淹 潟 淡

交為部

烙 淮 洪 渊 焰部 灌 滩 渊

烟烟

湾沢浅

· 广

済游 游

営

鴻満 滿

尽発疼当独

四 水 产 田 犬 画 獵 部 部 部 部 部

既 献

置量

+

經籍教礼禮解外務本務部部部

級級

稻 祷

然近

ナ

終總

枳 聡 絹 缺 脇 聰 旧 月旦 继 舊 膽 繼

居 月意

然意

土

月黛

变於解 變談解

党 蛍

言角見典 武器証 触野 野部 號

訳

想 或

觀虫

誉 舉

誌 蔷

经

書響

随

鉄鐵

鍾鑵

7

铸铸

顕顯

ナセ

女主 上 一 標 等 子 本 二 一 字 平 大 二 一 字 平 大 二 一 字

一久又十刀门一、 年太圭士九七三二

寸夕口卜力口人/ 三大击去十七四二

小大口ワケンルしまれるよう

爪毛止日文戈弋广工左至罢军是重重重

瓜氏至甲并产了支已尸至黑里是是是是是

父气受月广手乡之中中至艾里广东美国主

交水母本方支行升干山

产火比欠无文心廿么然 重至置军系是表表。孟 声音肉老糸禾皿足瓦牙盖主主系系

虫外臣而缶穴目亦甘牛

血舟自未四立矢处生犬

行民至耳羊竹石白用玄

衣色甘肃沿来示度田玉

魚骨飛羊住金辰走豆西

烏高食幸雨長邑足不見

亀髟首音青門酉身多角 至至至至父亲金文

鹵門香頁非阜采車貝言

鹿鬼面求里辛亦谷

在中中四月 龍鼓麥 頁 頁 百 許 心广寸口力人容 鼠麻 六 五 四 三 二 一 字 百百百 鼻黄 户之尸土匸儿

手状山土十四

齊季

艾弓似于ムン

齒黑

頁阜東見耳示田水木介

食住产角肉未产火欠方

馬爾哲言的行於爪止日

骨青金具声系皿交互日 大支 其 其 其 土 土 土 九 八 六

魚華門足由岳石大气月

齊鳥

齒鹿

龍麥

黑龙

鼠丸

と

各教科書に於ける漢字二千六百餘字に就いて整理したる本及び書き方手本·修身書並に歷史地理理科·算術等の 水版歷史·地理·理科·算析等に開するものは活版である 三體を併用して居る場合もある。又越戲 鷄雞 島鎌である場合もあり、即即旣概櫛のやりに包を見をしんで居る。例へは字典では獨體が乗で合體が廉 場合が多い。これが高め人々が其の據るところを知るのた ので、其の中第一種、第二種の讀本及び書き方手本·修身書は 漢字整理案は葬常小學校で用ひて居る第一種、第二種の讀 今我が國で慣用されて居る漢字の字形には統一を缺いて居る があり、或は時代に變遷もあつて、その標準の一定しない

んじ、統一を旨とし、活字體と手書體との一致な圖了にあ るので、整理上の要目を學げると左の通である。 を期する為、目下の急移である 現はれて居るものも區々で教授上困難を感ずることが少く 之比整理を加了ことは國民教育上漢字教授の徹底 々な字形の並び用かられて居るものがある。故に教科書に 活字にも亦備備 本案に於ける整理の方針は、簡便を主とし、慣用を重 三字形の釣合を整へるとと、 二運筆の便利なものに從かこと、 一字畫の簡易なものを採ること、 のみならず中には稍煩死に失するものいちないら 備、並並、勇勇、勢勢勢のやうに同字で種攜攜携の如く同字で數體あるものれある

例(は縄、蠅、竈に就、て縄、蝿、電を採った類であるいとのでも他に典據を求めて鮑めて簡易なものに從った。晋晋、決決に就、て刑晋、決を採った類である。又字典にな事情の許す限り其の簡易な方に從つた。例(は刑刑、言ふまでもない。 康熙字典に繁簡兩體を存するとは、言いまでもない。 康熙字典に繁簡兩體を存するとは、 便宜するのに従った。其の例左の通くしのであるが本案では大體社會の慣用に重きを置き、二運筆の便不便といいとは固より人々の習慣に基 一、字畫の複雑なものは成了べく之を簡今其の各項に就いて左に說明して見よう 四小異の合同を圖ること 字典體 与 雑なしのは成るべく之を簡易にする必要が 標準體 字典體

上の便を圖って整理した。其の例左の通さ得ないとの始體の窮屈なしのがある。中二文字の結構に就いて見ると、扁旁冠脚の、西文字の結構に就いて見ると、扁旁冠脚の、西 す招慣差皿、 此等は學習

断に陷するとを避けて其の典據を廣く和漢の字書類以上の要目に依つて字形を整理するに就いては勉めて但し母、己の獨體はそのまとである。 案の標準字體と同一で多くの印刷 現行の活字に 研帖等に求めた。 胃 姜貫氨 明 就了見ても門悉好好 月 (胃 己已成成等 巴巴 超記改危 包段意

居了所もあるから、本案の標準字體は必ずしれ今新に致して居るし、写、片、鼻の如き字體も既に之を使用して 定のたものでない。

目に就いて敷行して見ると次の通である。右は大體整理上の要目を説明したのであるが、出其の

五畫數を減じたもの

唐に又周を周にしたのも同様である。唐に又周を慣用に従って改めたもので、書を書に唐をおは一般の慣用に従って改めたもので、書を書に唐を、と、、 きょれんの 例 北、羌 北、羌 二、総線と編めたしの 号を号にしたのり同様である。右とか一般の慣用に従って改めたもので、袴の号を号に號の三級線を伸したもの一例角鼻角、鼻 角、鼻

右心亦一般の慣用に從つて改めたものである。四横線を縮めたもの例 磨得 虚 盗、寫

減したばかりでなる、運筆も便利になって居る。 食を食に、曾を曾に改めたやうなのは其の畫数が 奥を奥にしたやうなのも同様である。又えを之に、右は簡便に従って改めたもので、者を者に會を會に 例 片、步 片,步

六畫數を増したもの に一たのも同様である。 厚、蔵、冤、縣、懸、郡、臣、卑、厚、歳、免、縣、懸、駄をは慣用と學習の便利とを考えて改めたもので、臣卑、

九、統一な圖つたるの ちる。
ちょれと照に棋と様に護を護にしたのも同様でで、點を照に棋と整へ釣合をよくする為に改めたもの方は字形の結構を整へ釣合をよくする為に改めたもの方をを變えたもの例間、染潤、染 と統一一たもので此の例は非常に多い、これに二通あったは同字の形が其の名人、一年 は同字の形が其の組合せに從って區々になって居るの 例 吏 (惠) 吏 足 (屋) 事 刷 標準體 叀 惠 尺) 刷 事

七併合を行つたらの 右は異字で形の類似して居るものを併合したので此等の 見ので統一了た見の例へば込、世、と、亡さ亡に、ひ、其の二は字典に在了一つの形に幾分の整理を加くた 谷を谷にうたやうなものである。 へはア、アアとアに、示示を示にしたやうなものであ て其の一は字典に在了一つの形でのきいで統一したもの例 何 字典體 月 前 月 (胃) 霸 明 西 月 標準體 買 前 明 極

(番)と米(株番)にしたやうなものもある 外仍(梁)刃(忍)刀(剱)を刃(梁、忍、剱)に、 采(採)采

土、二體以上の一を採ったもの 柯 字典體 乘 標準體

垂 猪豬猪 垂

猪

ま、を採ったものと、とれに幾分の整理を施したものとこ 中溢を採ったやうなものは前者の例で、路器の中 通ある、決決の中决と、當富の中富と、澀溢 て居了一體を選んだので、ろれにも字典に在了一つの形での 右は同字に二體以上あるものに就して其の中最も慣用され

やうなものは後者の例である。 猫の中猫と、松桑松の中松を採った

以上は十二項目に對する説明である。 右は字音に従って改めたるので、直里を一直にしたのら同様立、字音に従って形を改めたる例、直、萌、直、前、直、前、 又整理の結果と一て字典の部首部屬の多少變のた であるが此等の外には至って数が少ない。

部首の無くなったもの、 は左の二つである。 字典の文片 久に併合字典のには じに併合

卷危舍全兩內標體

户于部部部部 巴巴部部 巴巴部部 巴巴部部部 人人 響

士

問兹史着厩舒守冤冠寫宜 151 門玄臼州广舌大 理部部部部部部部部部部 目厂 部部部部部部部部部部

明したの

同字で二つ以上の形が行けれて居るものは、簡便を主とと採って許容字として本案に附載した。此等の中所が區やになって居るから、今その中適當と認めたものが。 尚本案に掲げた標準字以外、一層簡易な字體が垂は述べない する計に由って適宜一體を採用することうした。 通に用いられて居るものもあるが、その用香に就いて世人の見る

十五

大正八年十二月二十五日發行大正八年十二月二十百印刷

部省普通學務局

印刷者七條門丁百一

印刷所金屬版印刷所東京神區使問可百番地